

大学生の旅行タイプ志向と心理的特性や社会経済的地位との関連性

○本山タチアナサユリ・別所みづき・向居暁
(県立広島大学地域創生学部)

問題と目的

観光・余暇研究では、心理的特性が旅行の動機や行動の個人差に関与することが示されてきた (e.g., Jani, 2014; Lepp & Gibson, 2008)。本邦では、観光動機が外向性、協調性、開放性により高められ、勤勉性により抑制されること、そして、開放性や協調性が高い人ほど文化見聞的な観光動機が強いことが報告されている (三橋, 2021)。また、旅行の目的地や活動の選好は、自己像との適合 (self-congruity) によって強化されることも示されている (e.g., Sirgy & Su, 2000)。加えて、社会経済的地位 (SES) も旅行行動に関わる可能性があり、とりわけ文化施設への来訪や文化参加の安定した予測因として報告されている (e.g., Falk & Katz-Gerro, 2016)。

本研究は、大学生の旅行行動や志向 (行き先・過ごし方) が心理的特性や SES とどのように関連するかを検討することを目的とした。そのために、複数の旅行タイプの旅行経験と旅行志向性を従属変数とし、①年齢、性別、SES (代替指標、主観的)、②心理的特性、③自己適合性を順次投入する階層的重回帰分析を実施し探索的に検討した。

方法

調査協力者 大学生・専門学生 357 名 (男性 89 名、女性 265 名、不明 3 名) を分析対象者とした。平均年齢は 19.24 歳 ($SD=1.37$) であった。

手続き オンライン調査 (Google Forms) を実施した。旅行タイプ (8 種類) は、美術館・博物館、歴史遺産・伝統建造物、現代アート体験施設、都市型テーマパーク、山岳・高原・湖沼、海岸・離島、温泉・スパ、体験型アウトドアであった。従属変数は、旅行経験 (過去 3 年間の訪問回数) と旅行志向性 (訪問意向・魅力度・優先度の平均得点) であった。説明変数は、[第 1 段階] 性別、年齢、SES 代替指標 (石井, 2019)、主観的 SES (Adler, et al., 2000)、[第 2 段階] TIPI-J (小塩他, 2012)、4-CTSQ-J (中村他, 2025)、5DCR (西川, 2020)、Positive Solitude (中尾・平野, 2024)、孤独感 (Igarashi, 2019)、本物志向 (独自作成)、[第 3 段階] 自己適合性 (科学者、芸術家、冒険家タイプ; e.g., Chamorro-Premuzic et al., 2008) であった。

結果と考察

旅行経験 文化系 (美術・博物館、歴史遺産) は、年齢と客観的 SES (SES 代替指標) と正の関連を示した。主観的 SES は現代アート施設とテーマパークと正の関連を示した。外向性は現代アート施設、テーマパーク、海岸・離島、温泉・スパの経験と正の関連を示した。本物志向は歴史遺産と正の関連、ストレス耐性は美術・博物館と正の関連、欠乏の感受性は山岳・高原と正の関連を示した。また、熟慮的思考選好は温泉・スパと負の関連を示した。

旅行志向性 文化系は客観的 SES と正の関連、自然・レジャー系 (自然系 [山岳・高原、海岸・離島] + 体験型アウトドア) は主観的 SES と正の関連を示した。外向性はテーマパーク、海岸・離島、温泉・スパ、体験型アウトドアと正の関連を示した。価値志向 (本物志向) は文化系と強い正の関連を示した。芸術家タイプは文化系、冒険家タイプは自然系と正の関連を示した。Positive Solitude は海岸・離島と温泉・スパと正の関連、孤独感は体験型アウトドアと負の関連を示した。

まとめると、文化系では、客観的 SES が一貫して関連し、教育・所得といった文化資本が芸術・文化参加を規定するという既知の知見と整合した (e.g., Falk & Katz-Gerro, 2016)。自然・レジャー系では、志向性の段階で主観的 SES が関連し、時間や費用に余裕があるという実感や、移動や準備を自分でこなせる自信が選好形成に影響する可能性が示唆された。外向性は社交性や活動性の高い文脈で経験・志向の双方に関連し、性格特性と旅行動機・旅行行動の対応関係を支持した (e.g., Jani, 2014; Lepp & Gibson, 2008)。また、本物志向は「真正性」を好む価値志向として、芸術家タイプは自己像との適合性を通じて文化系の志向を高めたと考えられる (Sirgy & Su, 2000)。最後に、冒険家タイプが自然系志向と関連した点もこの観点と整合する。これらの結果は、大学生における旅行タイプの個人差が、客観的資源 (家計・教育) と主観的な資源評価、さらに外向性などのパーソナリティや価値志向、そして、自己像との適合性の相互作用で説明されることを示している。